新板

續八犬

宮川

春水

魅力

三之巻

へ遠13
1690
9

1690
3

ひのさうさ

明文

宇治川
あづまの海

魁 射 至 三ゝ巻

目録

第一 軍中の模様 櫛の曲ゝ 梶原ゝ手負

白党と赤と 緋縅と法華の支度

ひけ高ひのるゝ 熊の部屋出ゝ

天乃あみ笠 作ゝ 情状

第二

楊枝やぐら　五段割り二階のさうだ
主人のうちを楊枝の亭うぐもり　徳
きれつよいたまぐらうろ髪くもてまさ
枝の楊もかれあてゆ出もうる毒人が宅義

第三

第のとぐら紙ちりの酒をが滅
庵に楊枝をいけてをうれぬ手紙が
あ石ぬ楊ぬ　まゆよなうかしらぐ
ううわうさ楊はうやて是と四箱同志

一　軍中の便利機の図ぬ梳系ぐ多変

周南に游女ととうこんぺ人やうぬ雅を持ておうき。
人のうしてふんでまうる毒ぬかの自由か世の中。軍中とても呂い
をうず。便利所と云てまいうり。さ紙ぐでのおさうひけ人うく
ちをかい月と学庵のうしい言えうぐ。金と鳴ぐ出うけ。矢車の
まいうりのうちい現ぐ庵。ニ升下のひう升とうこ庵ぬ。
どんどくうこんぺ代うけて昇る月もちいゆ屋風とうう毒を
用。流寝する便利の船とたに移ちうて人と流ぐでせ
いるかうこんぺ家ぬ雅は楊の屋ぬ代ぐ紙で色高ぐ流うい。
結毒の色石といる毒ぬやぬ。家紙云へ利ぐとて出軍中へ
便利庵と出けうぬ。その仕楊ぐらいぬ紙ぐ流うぐへ楊ぐ

まつら五郎源清の御ぃ清氏、信濃の国の住人、上杉の縁
つゝきてひらぐ名ぢ清氏郷ぢうんい事あと定て清氏へ要る事と
事あ、うれべ事あ、つゝきする事あ。清氏へ
ゝるとあせてぞみやん〳〵そさいぢそれぢ答びけのまん事へ元ひとゝ
ぢいかるし。上下ざいて名のゝ
信濃まゆゝるゝてはりしぢ。又の清氏を事事あぢ清氏へ
いぢしゝ。ゝゝ。人ゝ戦場へひゝ。めゝといゝ。ゝけぢされ
ゆ愛ゝ。ぢ。ぢ。ゝ。ゝ。ゝ

出てはいくまくとそうさてぱかりおもはれてこれのかをこ
いごさう海苔ちと向けてぷしぬもけてぷ我あ世界とこんぺおて
きていつるもすぎりけぷ。こまく弟ろ御ふにのて軍いそをちにとい。
こりや誠の人今はいあるもおく考をれぞれぞく紙入れあ一ぷまりとえづこ伊三郎
やの無ふとんでこれとのれ行長とて中将なへ人とけらをぷお法が入べ
めこてこぷつるくと。ぷれごころ。ぷれごころ。そぶけおをぞこいへ。ぷくいま
くいと家にくれぷちこさくぞやぷさつぷそでぷくこぷいどちぶ椎ふ
白いて法ないれぷ。椎茸ぐめてそ。伊吾ぐ。ぷまひ。ぷ名ぷとこへぷ男ぐ
名ぷ家こいぷこいぷパうぷ。ぷさおぷぷあっぷじや。ぷれぷのこるものお
あっぷも家れとぷけぐござんと。ぷりゃも。ぷれぷりげすへ。ぷじやこいぷいろ
ぷも椎茸添ためくやまくこいぷよ。こりやうすれ。ぷれぐ。ぷ実ぷこぷこるぷ
ずんぷくこわぷてろぷくぷ。ぷ二階へぞあぐけぷ。ぷこの男いるぷく

ぷこの男ぷ人ぷもぷぷく意ぷぷぷ。ぷこの間ぷふぐれぷぷおぐこぷぷおのうき
椎茸ぐ。ぷこいるぷちぐこ。ぷとこぷこぷて解れた。ぷくぷ。ぷ。ぷ高い。
乱士ぐこぷ。ぷこぷ。ぷ。ぷ。

はたらきはたらいたらのつまり。ぢぶんぞのけまをとこ。二あつこあ
ゝ立すぐつていぶすまいくおくさいくしてせそげのあのあのうをんなと。揚
屋の門よりそうめど。二階一階のあのかげのくいどぢゆかあの梅
あれぬかおいくさい屋敷ぬと。分てとけ。たゞよ。ゆとあげたなあそづ。ぬまの
あれまてゴリや。揚屋ぢあぬいくいはたうげとうあいとこといひ
あぐ。ぢ。ぢ。ぢ。川ぬまもつちうこ。ぬあ。ゆうるふぢん。ぬ。て。屋敷ぬ。ぬ。あ。ぬ。い
あうちぢ。ぢ。ぢ。伝拍ぢや。二人ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。出て。ねるにせずいそくまで。かけ
ぬんとすぐ。ぢ。ぢうちうこ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ

といってすぐ和くさったっそのぞく傘がすこうわとこんこの泡ぶてもぶ
豆のこのっぽっこ方がこの平と言葉い。粒毎ひとみづ大後人ぶ。ぶ乃ゆる
けっこ家作こへ射ての色か。一物わるる乃祝こ人名きおいこうぶ。ちろれも
そ方けいこ家い乃かものと言ひしいっぷ。ゆ方おいひまけいを分
のまけるとぶ言葉ぐひけよ。ゆ。なるいひよいぶ名と来代ぐ。ぶ
ひっきるれいゆっきれ言葉せうと情級接てちっこれいぶ言葉大ふ
ゆげ出ーとびきうて。わまれるる人名物一面ゆぶそのこいゆ。ぶ乃
まうぶこっこいあげやの行年こ出ぶ。ゆ言葉れとあそびました。
行われまこごこいぶまづこうまこお入あそびてのこれこぶ。ゆ言葉大物
ぐる乃づひまづわれと言葉ふ。ゆげ出ーる言葉ひ。ぶ。ぶ

二　揚枝屋ぐ乃と制る二階のさうだ

一てび笑い二浩ぐこてひいぐ面の揚。ぶ。ぶげる猫とぶ。て。

ぐどてぶ人れ代昔ゆ。ゆれ。言葉つてあるうとこって言葉と言葉ぐうあり
ぶこけうとこりやまて笑婦ぬ言葉ぶ言葉やのこ言葉やのこうこいこいづきあげ
ぶものまうゆげこうるぐゆ言葉ひいひまれげ笑ゆておいこゆるれいこうこ言葉
這言葉こと続活せいこいいこぶうこゆ。ぶ。ぶ。ぶ

二枚ぐらいの紙に軍中宿ごとに給仕屋の名をかきて、
よりあつめのぐる商人を打ち、思ひのままにして給仕と
いひ、ひとりの男のつれなるを情ありやうに給仕
あつけさせられぜめてのあつせと行るゆへに、毎夜かりる男の数
ちの男のうちよりもむすめとして若紫ちらしをつかふ所のあり
にこのうちは男ばかりおすへにはあつれうぞこころさんすごくるしてを女
のうちばかりなのをこころ、さきるひそこでさんとのくらいにはをれがいひ
のうちこころのおとのうちあるいやくいびこころとこそこしたち
つるのよりあるこは給仕ちびやうくのつけはしつけいてやま
ひ物のついぞういぞくこころにいれはこの事をのおとこ家おこんた
ぶいろいやんかそんかの兵軍合とやらのつきわいはい作本も兵
てあるかとこ兵屋事体ちくあるやそおとそあくにはとあつか

所くアイくとかどろが返りするおとそれるまちや二階へ行ようゆ
こうまくこざんとこ西洋方実はをいあるさんがこころとしてあるさんをうのて
いるはいかがいかずいろいろ探ぬ様側へ出そ二階をとんあげ見まいくよう
するのれは見まもあてあるしたを軍中しれる合いろいろ物ちやこれへ
あるのの使そしいろ所ありくいの四ぬ泊そこ二軒探るさが一日のうちのべ
百日いろさかいろいろいろいろ探ちろうふゆて探とろはて
いるかくこ兵いるこ屋ちくこ昭ちそれへちろ探ぬ泊ゆ泊ち
たぬりくはすせてかさ用ぐこちろこまりてぬ泊のおりはちろ入
とぬまくこ切情ちぬ泊ぬ様ちあるて西洋ちはとこ。きはさだ様
てはをいてしかるちさゆ会ちくぬつけるこの仕けぬこちまでとやう
あるあるとこ一日人合せてこの縄ちけをする内ぬ二階ちまりこぬ
とこの探ちとぬれぬぬまるひてここあるけぬ泊ちつく

よりて。あらがいかねるそしるのけ。無理をしいてはまつりごとに揆さるべきす。
こたびのものの口。一打と刀を抜いて。ろ法をもつて申しのべられ。ひつきやくい
ぐあいのものどもどしいかれいそのうへいみきつるれたりさしたるそのと
思ひいき反宮法川の出陣と物語りてさいかう。四つ反。中巻さーク七
ぐそれ所ひとつ反戦場のそこ。ぬつぐ。さつ町そして。ぬつぐ中巻と
ぬすぐ。きれのとこと。くらけ。もも月代のこつぬ。毋体より中巻矛先
及とおろ帰てのりかみのこるいしいまそ反れが勇功をそくぬさうぐこと
ろ。ろ反。戸ひさつてちい。彩こ。ぬ。およとねつ。そぬつてぬつてこいつこ反
中巻人数に彩ぬ。伊代こ。ろ。ぬ。ぬきのぐ。ぬ。ぬ。ぬ。この後。いねを
ちるわ。くつきこ。ぬ。一こ。ぬ。ぬ。ぬ。乃ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。又全人。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。用
付こ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。切。ぬ。ぬ。切。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆるさるいけ[illegible]と仕軍勢のかろうそ。ゐてこゝろかろ
扨ゐてに三郎ゆのゆゑ母屋けさろそく母人よとられぬ。
仕末いる術ゆしゆく。ゆいたりしかた母人のうこ[illegible]
おろかれ。ゆ。実の恋ゆしまけさるとゆ。ゆ。ゆ。仕ろそ巳
ゆゆ。し。ゆ。うからゐていくゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
母の恋ゆ扨母の後ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゐ三房の妹ゐれそどこのゐどゐれて三郎ゐへゐでていくゆと
ゆ人合せて。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
のれゐてき。三、の巳ゐ三郎のゐる方ゐれ。編執の事ゐて。
又子ゐ三郎よゐ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
を。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

けゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

らんとあれば、義仙接ぎて、
まことにさぞんじまいらせ候。
ゆえ。迎えの五郎れの使者
ゆく稲の下に思びくいけ
いるべくいさかと義仙
つくおとぼけ。力と接つ
うそ。しうの出せい。戦
叫びやいひ。義仙
しよう。又夫の使ら一くに
出ぺ。小判とその値
あり女郎とげ。
廃ひ。

義仙接て切付ける。
の大鯰。
覚こ奏。
わぐ。
されて。
らば。
えた。
にうざ。
縁い五郎が刃のよ
そうれて。

三之巻終